

坂出駅前の拠点施設を考える

ワークショップレポート

vol. 1

令和5年7月23日



みんなの“ココチよさ”がかなうまち
~まちをひらき、未来をひらく~

1

坂出駅前の拠点施設を考えるワークショップとは？

坂出市では、JR坂出駅を「まちのリビング」と呼べる居場所とするために図書館機能を核とした拠点施設整備を計画しています。

そこで、どのような拠点施設をめざすべきか市民参加型のワークショップを全3回開催し、幸せに暮らせるまちの将来について市民の皆様と一緒に考えていきます。



令和5年 7月23日 日 9:30~12:00

第1回

まちづくりの視点『駅前をまちのリビングにしよう』

■駅前空間の再認識 ■「まちのリビング」に必要な空間・もの・コトの検討

令和5年 7月30日 日 9:30~12:00

第2回

施設の視点『駅前の図書館にはどんな機能が必要？』

■駅前図書館への導入機能や施設についてのアイデア出し

令和5年 8月12日 土 9:30~12:00

第3回

運営の視点『みんなの“ココチよさ”をかなえよう』

■必要となる機能や施設から、人の関わり方についての検討

開催場所：坂出市役所 2階 大会議室

第1回ワークショップを開催しました

令和5年7月23日(日)、坂出市役所の大会議室にて第1回のワークショップを行いました。当日は公募により36名の方にご参加いただき、幅広い世代からご意見をいただきました。

ワークショップでは、高校生から70代までの参加者が6班に分かれ、3つのグループワークが花井裕一郎氏のファシリテーションのもと進められました。

まず、駅前空間を整備するにあたり、「まちのリビング」というイメージから思い浮かぶ空間を整理し、具体的に理想とする機能や設備が各班で書き出されました。

併せて、現況も踏まえた課題を抽出し、さらに想像できる施設での過ごし方について、各班でアイデアを出し合いました。



ワークショップの内容

1. オリエンテーション(趣旨や事業の説明など)
2. 自己紹介
3. 図書館とリビングを語ろう
4. 施設での過ごし方を考える
5. 各班の発表
6. 宿題について



ワークショップの様子



ファシリテーターの花井氏から様々な事例の紹介をしてもらい、図書館について学びました。



グループワークでは各班で活発な議論が行われていました。



各班の意見や検討結果を紹介します。

※赤字については各班が全体発表時に強調していた箇所です。



「まちのリビング」のイメージと欲しい機能

【リラックスできる場】

- ・ソファ ・椅子 ・観葉植物 ・映画 ・テレビ ・カフェ ・バー ・本 ・雑誌
- ・YouTube ・動物 ・マット ・絨毯 ・マッサージ機

【コミュニケーションの場】

- ・子どもと遊べる場

【集中できる場】

- ・自分だけの空間(個室)



想像できる施設での過ごし方

- ・カフェやソファでの友人や家族との会話 ・バーでお酒を飲みながらの会話
- ・マッサージ ・塾の待機時間 ・子育て支援 ・介護相談 ・まちの保健室



考えられる課題

- ・運営と維持管理を担う人材の確保 ・酒類の提供の可否 ・費用
- ・駐車スペースの確保 ・望む環境(にぎやか・静か)のエリア分けの必要性
- ・飲食店、宿泊施設、子育てルーム、フィットネスクラブの併設の可否



1班におけるワークショップの様子



各班の意見や検討結果を紹介します。

※赤字については各班が全体発表時に強調していた箇所です。



「まちのリビング」のイメージと欲しい機能

【リラックスできる場】

- ・観葉植物 ・音楽 ・カフェ ・**ソファ** ・**快適な家具** ・寝転がれる場所
- ・高い天井 ・みどり ・食事のできる場所 ・マッサージチェア ・畳
- ・屋外とのつながり (ハンモックやブランコ)

【コミュニケーションの場】

- ・キッズスペース ・オープンスペース

【機能的な場】

- ・Wi-Fi

【集中できる場】

- ・仕事や勉強に集中できる空間 (個室)



想像できる施設での過ごし方

- ・**自分好みの環境を、読書や会話といった利用用途に合わせて選ぶ**
- ・子どもを自由に遊ばせる ・テレワーク ・自習



考えられる課題

- ・年齢制限の有無 (何歳以上の子どもが利用可能か)



2班におけるワークショップの様子



各班の意見や検討結果を紹介します。

※赤字については各班が全体発表時に強調していた箇所です。



「まちのリビング」のイメージと欲しい機能

【リラックスできる場】

- ・昼寝できる空間 ・歌が歌える空間 ・靴を脱げる空間 ・コタツ ・和室
- ・フードコート ・ソファ ・サイドテーブル ・バー ・本 ・高い天井 ・適度な音

【コミュニケーションの場】

- ・キッズスペース ・コミュニティルーム

【機能的な場】

- ・Wi-Fi ・24時間 ・テレビ ・パソコン ・医療

【特徴的な場】

- ・子どもの水の遊び場 ・フォトジェニックな場



想像できる施設での過ごし方

- ・雨天時の遊び先 ・施設の写真撮影 ・仕事（特にテレワーク） ・勉強
- ・カフェやコタツで、本を片手にくつろいだり、友人・知人と会話したりする
- ・講演会、イベント、ワークショップ、講座など催事での利用 ・eスポーツ



考えられる課題

- ・バリアフリー ・多言語対応の施設案内 ・アレルギー対応の飲食販売
- ・子どもの安全の担保 ・費用
- ・望む環境（にぎやか・静か）のエリア分けの必要性
- ・開館時間の設定（仕事・学校帰りに寄れるような時間の設定）



3班におけるワークショップの様子



各班の意見や検討結果を紹介します。

※赤字については各班が全体発表時に強調していた箇所です。



「まちのリビング」のイメージと欲しい機能

【リラックスできる場】

- ・ソファ ・マット ・絵画 ・音楽 ・アロマ ・植物(より自然に近いもの)
- ・大きな窓 ・ウォーターサーバー ・カフェ ・オシャレな照明 ・クッション
- ・世界の雑誌 ・屋外テラス ・足湯 ・日光浴 ・ミニシアター

【コミュニケーションの場】

- ・キッズスペース ・レンタルスペース ・キッチンスタジオ ・将棋を指す場
- ・共有花壇 ・水遊びの空間 ・天体観測の場

【機能的な場】

- ・Wi-Fi ・テレビ ・パソコン ・タブレット ・シャワールーム

【集中できる場】

- ・個室 ・適度な仕切り



想像できる施設での過ごし方

- ・カフェやソファでの友人や家族との会話 ・テレワーク ・自習
- ・自然やアロマ、絵画、音楽など五感から癒される場で心身ともにリフレッシュする
- ・コミュニケーションの場でのイベント(ワークショップや講座に参加)
- ・レンタルスペースでの様々なイベント ・水遊び



考えられる課題

- ・駐車スペース ・費用 ・子どもの安全の担保
- ・運営と維持管理を担う人材の確保



4班におけるワークショップの様子



各班の意見や検討結果を紹介します。

※赤字については各班が全体発表時に強調していた箇所です。



「まちのリビング」のイメージと欲しい機能

【リラックスできる場】

- ・ソファ ・テーブル ・カフェ ・植物 ・音楽 ・ペットを連れていけるスペース
- ・テレビ ・コタツ ・足湯 ・椅子 ・大きな窓 ・畳 ・絨毯 ・枕

【コミュニケーションの場】

- ・おしゃべりできる場 ・子どもが安全に遊べる場所

【機能的な場】

- ・Wi-Fi ・テレビ ・パソコン ・パソコン作業ができる机

【集中できる場】

- ・個室



想像できる施設での過ごし方

- ・ソファ、椅子、畳、絨毯、カフェなど **様々な場所でくつろぐ**
- ・ペットと一緒にくつろぐ



考えられる課題

- ・望む環境（にぎやか・静か）のエリア分け ・費用



5班におけるワークショップの様子



各班の意見や検討結果を紹介します。

※赤字については各班が全体発表時に強調していた箇所です。



「まちのリビング」のイメージと欲しい機能

【リラックスできる場】

- ・カフェ ・ソファ ・Yogibo ・植物 ・靴を脱げる空間 ・音楽 ・ヨガスペース
- ・景色 ・適度な明るさ ・個人用ミニテーブル ・本

【コミュニケーションの場】

- ・学生と大人が交流するスペースや機会 ・子どもと遊べる場

【機能的な場】

- ・Wi-Fi ・パソコン ・タブレット ・清潔なトイレ ・健康診断設備

【集中できる場】

- ・個室 ・自習室



想像できる施設での過ごし方

- ・個人用と複数人用のソファの利用
(個人用ではデスク付きで作業可能なように、複数用では会話ができるように)
- ・新たなコミュニティへの参加(ワークショップ、イベント、研修会等)
- ・テレワーク ・自習 ・DVD鑑賞 ・障がいのある方との同居



考えられる課題

- ・個人(静か)と集団(にぎやか)のバランスとエリア分けの必要性 ・開館時間
- ・他人と関わる場や機会の創出とハードル ・費用 ・駐車スペース ・通いやすさ
- ・維持管理を担う人材の確保 ・飲食と読書の両立の可否



6班におけるワークショップの様子



「まちのリビング」に対するイメージと理想とする機能や設備については、「リラックスできる開放的な環境」のなかで「コミュニケーションが取れる場」が挙げられ、同時に「機能的で利用しやすい施設」となることが求められていました。

特に、緑あふれる空間のなか、カフェやソファで友人や家族とくつろぐことを望む声が多くあり、また、絵画やアロマ、書籍、音楽など「長く居たい」と思わせるための工夫を提案する班もありました。コミュニケーションの場では、子どもとの遊び場やイベント用スペース、新たなコミュニティを醸成する個性的な場（水遊びできる場所、天体観測、足湯、将棋、交流スペース等）がアイデアとしてありました。機能面としては、個室など集中できる場の確保やインターネット環境の完備を求める意見がありました。

課題については、駐車スペースと維持管理を担う人材と費用の確保といった点に加え、利用する人たちが望む環境（にぎやか・静か）のエリア分けをどのように行っていくのか、子どもが安心・安全に過ごすことのできる環境をどのように担保するのかといった利用者目線の懸念点も示されていました。また、学校や会社帰りに立ち寄ることが出来るよう、開館時間の設定へ配慮することを望む声も見受けられました。



各班の意見の発表



各班の方からファシリテーターの花井氏に対する質問も含めた様々な意見やアイデアをいただきました。



お子様の一時預かり



ボランティアグループ「夢・ゆめクラブ」さんのご協力により、ワークショップに参加する方のお子様の一時預かりを実施しました。今回は9名のお子様遊びに来てくれました。

